

金城学院大短大 東珠実、鍼アルバイトタイムス 大石美晴、名古屋文理短大  
 ○鈴木真由子、福山女学園大家政 守谷敏子、大阪市立大生活科学 古寺浩  
 静岡大教育 菅原亜子、村尾勇之

目的 本研究の目的は、これまでの報告で述べたように、アメリカ家政学会誌にみられる家政学の研究内容が、歴史的にどのように推移してきたのかを追求し、それをとおして、家政学の本質を明らかにしようとするものである。前報では、前年度の報告をふまえ、家政学原論領域の研究内容の歴史的系譜を概観した。そこで本報では、第3報に引続き各領域の中で家庭経営学および家庭管理学（以下、経営・管理とする）に注目し、その量的・質的な時系列推移の特徴を理解しようとした。

方法 本報において使用した資料は、前報と同様1909年から1989年のJOURNAL OF HOME ECONOMICS（81年間・724冊）、ならびに1972年から1989年のHOME ECONOMICS RESEARCH JOURNAL（18年間・76冊）である。また分析方法は、前報にも示したように以下のとおりである。①経営・管理領域の総数を集計し、1910年代から1980年代の年代別・中分類領域別論文数を確認する。②各年代毎の中分類論文数を指数化し、時系列変化をより明確化する。③中分類領域の構成比を求めることで、領域間の相互関係及び質的变化を把握する。また、中分類間のバランスの動向を視覚的に捉えるため、レーダーチャートの作成・パターン類似率の算出・群内平均法によるクラスター分析を行う。

結果 ①経営・管理領域の論文数の動向をみると、20年代・30年代はやや少ないが、全体的には緩やかな増加傾向を示すことが理解された。②12の中分類領域は、それぞれが特徴的な時系列変化を示すことが明らかとなった。③年代間の領域構成比の動向から、その類似性を検証することができた。